説明

『父ちゃん、コレ 動かない』
差し出された、某プラレールの車両。

「あ〜 これはもう電池ないね」
すると すかさず一言。

『あのね父ちゃん、電池は ここにちゃんと入ってるよ。
電池がないんじゃなくて、電池が古くなったんだよ きっと。』

正しく明らかにしてはじめて セツメイ と呼ぶのである

きっかけ感話
【 超 短 編 】

vol.48

和而不同

一台の某トミカを巡り、子ども間の取り合いがはじまる。バトルの傍らで、散らばるその他十数台。「こっちにもいっぱいあるよ、ほら！」残念ながらそのフォローは半ば意味をなさない▼欲し、手に入れたものは誰にも渡したくない。大人も子ども同じだ。まず羨み妬み、次に掴めば独占し、やがて失った途端、憎悪し落胆する。そしてまた羨み妬む。この繰り返しである▼極端な話、〈持つ〉執着を放棄できれば、苦悩は無くなるのかもしれない。だが現実はどうだ。あらゆるものを〈持ち〉、かつその元に営まれている日常を送ることが、社会で生きるということだろう▼何も財産や住まいなどに限ったことではない。例えば連れ合い・家族・友人、地元や故郷、あるいは立場・世間体。そして、自身の健康・ひいては いのち もまた同様である▼〈持つ〉ことへの執着を本質として生きながら、〈持つ〉ゆえにひとたび縁がもよおせばそれは苦悩をもたらす要因ともなる。まるで背反関係のようで、ある種の相互関係のようでもある▼泣き喚く相手をみかねて、ぐっと差し出されたショベルカー。ほろ苦いその表情に映る、葛藤のあと。本質に揺さぶられる渦中には、人としてのはぐくみもまた、あるのだろう。

若院コラム

ものを欲しいとおもわなければ
こんなにもおだやかなこころになれるのか

八木重吉
『おだやかな心』

さいほうじの
新しいブランドマーク
ができました

詳しく見る